

かんきつのカイガラムシ類に対する各種薬剤の防除効果

カイガラムシ類に対して**有効な薬剤（スプラサイド剤）**が登録失効したことに加えて、これまでに問題視されていないカイガラムシの発生が顕在化している現状があることから各種薬剤の防除効果を検討するとともに、新たな資材（交信かく乱剤）によるフジコナカイガラムシへの防除効果を検討した。

■ミカンワタカイガラムシの生育ステージと被害

◆生態的特徴

- ✓ 年2回発生（1齢幼虫は5月～6月、8～9月の発生）

◆被害の特徴

- ✓ 吸汁による枝枯れ等の樹勢低下
- ✓ すず病の発生による果実被害



■薬剤試験の結果（令和8年6月27日実施）

試験方法：6月27日に宮内伊予柑の寄生枝をマーク（1区1樹4調査枝）し、齢期別に計数し、その後、各種薬剤を動力噴霧機を用いて各樹（1区3樹）に十分量を散布した。散布17日後、散布25日後に齢期別に生存個体を計数した。

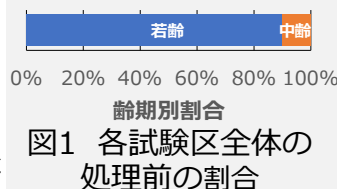


図1 各試験区全体の処理前の割合

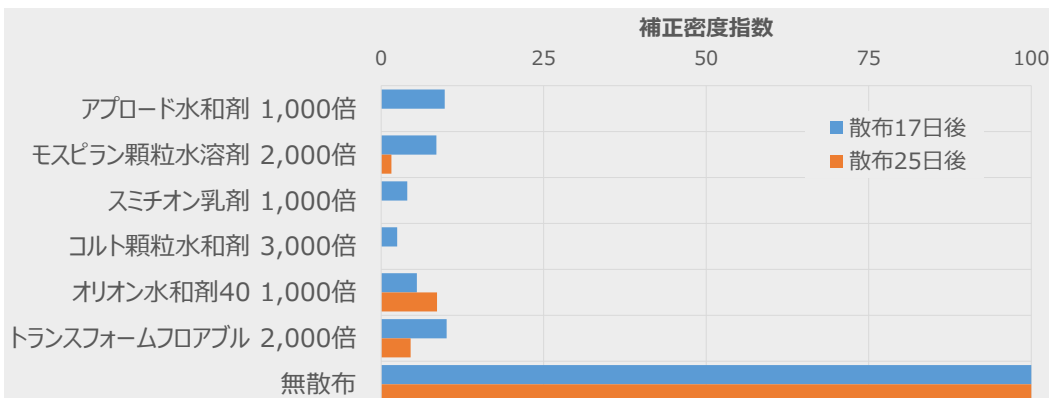


図2 ミカンワタカイガラムシに対する各種薬剤の防除効果

※補正密度指数は、数値が低いほど効果が高い

・6月下旬の散布では、カイガラムシ類に登録のある薬剤はいずれも効果が高かった

■フジコナカイガラムシの生育ステージと被害

◆生態的特徴

- ✓ 露地栽培では、年3回発生（1齢幼虫は6月中旬、8月上旬、9月下旬の発生）

◆被害の特徴

- ✓ 吸汁による枝枯れ等の樹勢低下
- ✓ すず病や奇形果の発生による果実被害



■フジコナコン設置による試験の結果（令和8年4月13日設置）

試験方法：施設栽培の愛媛果試第28号の樹に、ディスペンサーを50本/10aとなるように設置し、その後、トラップにより捕獲された雄成虫を計数した（10日間隔）。8月20日に各区300果についてフジコナカイガラムシ寄生果数を計数した。

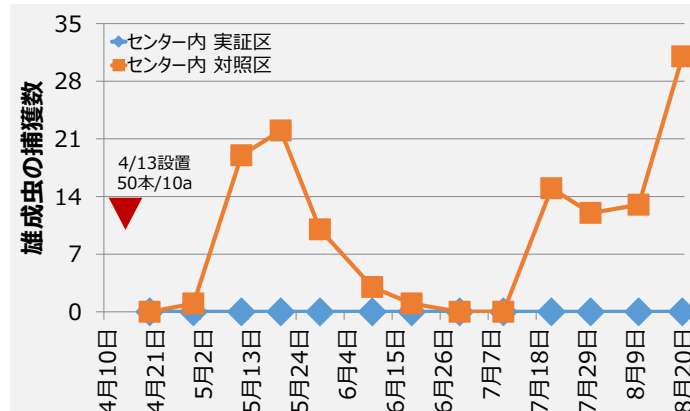


図3 各処理区における雄成虫の捕獲数の推移

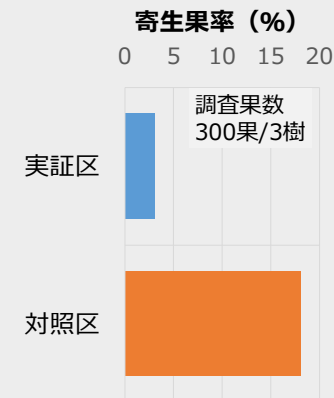


図4 各処理区における8月20日の寄生果率

・対照区と比較して実証区で雄の誘殺数がほぼゼロとなった。
・実証区では寄生果率が低く、効果が高かった。